

一 少子化の進展に対応した新たな学校づくりに関する事項

- 検討していく上での基本的な立場
- 町として学校のあり方を考える時期に来ている。思い切ったやり方をしないと新しいものは生まれない。
- 先にゴールを示す等、スピード感をもって進めたい。
- 財政面も合わせて考えていきたい。

○新たな学校のスタイル

- 児童生徒数、学級数の多い学校。多くの人とかかわることができ、様々な体験が可能になる。複数の学級があることで学級編成替えが可能になり、人間関係の面からもよい。
- 子どもたちの様々なニーズに対応でき、また、様々な選択肢のある学校。多様性を持つ子どもたちが学べる環境にあるとともに、つまずいた時の居場所が確保できるように。
- 子どもも親も教師も笑顔があふれ、みんなが元気で楽しめる学校。いじめ、不登校のない学校。

○新たな学校での学び

- 自然体験、社会体験等体験を大切にした学び。
- 多様性を持った多くの子どもたちの中で、様々な体験をさせてくる。
- キャリア教育等社会とつながる学び。

1 少子化の進展に対応した望ましい教育環境のあり方に関する事項

- (1) 小・中学校の配置及び通学区に関する事項
 - ・学びの適正規模、適正配置及び学校制度 等
- (2) 小・中学校間の連携のあり方に関する事項

○何らかの形で学校を集約することが必要

○学校を集約することのメリット

- 多くの人数
 - ・多くの人とかかわる
 - ・いろいろな考えにふれることができる
 - ・切磋琢磨できる
 - ・学級として多くの活動、学びが期待できる
- 複数の学級
 - ・学級編成替えが可能となる
 - ・人間関係がリセットできる
 - ・固定化された序列が崩れる
 - ・学年としての活動に幅が生まれる
- 施設・設備面
 - ・一つにお金がかけられる
- 教職員の確保

○学校を集約することのデメリット・課題等

- 通学の問題
 - ・歩いて通えない
 - ・道草ができない（体験が不足）
- 地域とのかかわり
 - ・学校ボランティアのかかわりが薄くなる
 - ・地域感情、地域文化の伝承の問題

○課題等への対応等

- つまずいた時の居場所
 - ・学校の中で小さな居場所、学びの場の確保
 - ・リモートで対応
- 不登校、いじめを前提とせず、不登校、いじめのない学校をめざしたい
- 低学年は地域、高学年は一つ →通学、地域とのかかわりへの

○集約の方向

- 小中一貫校、義務教育学校にする。
- ・小中一貫校、義務教育学校にする。
- ・まず小学校を集約し、その後小中一貫教育校にする。
- ・西小と東小を集約して大きな学校にし、南小を小さな学校として残す。選択肢として残すことで、ニーズに対応できる。
- ・低学年は地域の学校、高学年は一つの学校。

○集約にあたって

- 段階的に、小学校を一つにして、それから小中学校1校（小中一貫教育校）にする。
- 段階的に進むと時間がかかるので、一気に進めた方がよい。
- 小学校の集約については、既存の建物を使うのがよい。
- 小学校中学校は、建物を分けた方がよい
- 町民への周知、地域の理解が必要である。

2 小・中学校と地域との連携のあり方に関する事項

- (1) 辰野町の良さ、特徴を生かした新たな教育課程等のあり方に関する事項
 - ・学校制度及び教育課程の大要 等
- (2) 教育課程外の活動のあり方に関する事項 等
- (3) 放課後及び課外活動の位置づけ及び地域連携に関する事項 等

○地域との連携

- 子どもと大人との触れ合いを大切に。
- 地域で子どもを育てることう大事に。
- 地域の思いを大事に。
- 学校の中に公民館。
- 地域の特色を生かした教育。

○放課後のあり方

- 放課後の子どもたちの学びの確保。
- 地域との協力等、学童のあり方。

二 就学前から一貫した支援・指導のあり方に関する事項

- (1) 多様化する児童生徒への支援・指導のあり方に関する事項
- (2) 保育園から小学校・中学校の連携のあり方に関する事項
- (3) 保育園・幼稚園から高等学校、短期大学まで揃った町の良さを生かした学校づくりに関する事項

○辰野モデルとして、小中高大まで含めての一貫校

△第7回委員会

○集約した学校でどのような学びを保障するのか

- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」
- 地域とのかかわり 等

○多様化する子どもたちに対応した学校はどうあったらよい

- 不登校・不適応傾向の児童生徒
- 発達障がい傾向の児童生徒 等

△第8回委員会

○集約した学校で、地域との連携をどのようにしていったらよい (第7回委員会を受けて)

- 第7回委員会で議論した学び、多様化への対応のために、地域としてできること
 - 地域で子どもを育てる
 - 地域の思い
 - 地域の特色を生かした教育
 - 地域が支える教育活動

